

広報

えびな

8/1日号

編集・発行 海老名市役所 市長室
〒243-0492 神奈川県海老名市勝瀬175番地の1
代表 ☎046(231)2111 FAX 046(233)9118
HP http://www.city.ebina.kanagawa.jp

「広報えびな」は、市シルバー人材センターの会員が各家庭へ直接配布しています。お手元に届かない場合はご連絡ください。
☎ 同センター (☎237・3001)

世帯と人口(7月1日現在) 世帯50,309 人口127,083人 男64,593人 女62,490人

大切な人を守る力

～地域で活躍する消防団～



消防団は、市の消防機関の一つです。海老名市では1本団を設置し、その傘下に14の分団が配置されています。今年7月1日現在、約200人の団員が地域で活躍中。今回は、第4分団・渡邊隆夫分団長にお話を聞きました。



▲渡邊分団長

渡邊さんが消防団員となったのは29歳のころ。当時の分団長など地域の方に勧誘されたのがきっかけ。「一度は断ったのですが、皆さんの『自分たちのまちは自分たちで守る』という強い思いに心を動かされ、入団を決定しました」

日ごろの訓練の成果を披露する第4分団の団員たち

活動内容は訓練、消火活動のほか、消火栓・防火水槽などの点検を月1回、春・秋の火災予防運動や歳末特別警戒での夜間パトロールなど。また、「消防団の活動は、地元の支援があつてこそ。ですから、地元の祭りの手伝いなどには積極的に参加しています」と笑顔で話します。地域とのつながりを大切にしていることがうかがえます。



消防操法大会で見られるような消防用器具の取り扱い、「消防活動の基本。体に覚え込ませておかないと、災害発生時に迅速・的確に活動できる」と話します。



地域の祭りで子どもたちを見守る消防団員

「厳しいだけ」と思われがちな消防団について、「自分たちのまちを守る。大切な人を守る」という目標に向かって一生懸命になれる仲間、年齢や職業に関係なく意見も冗談も言い合える。厳しさと緩さがちょうど良くバランスが取れています」と魅力を語ってくれました。

現在、消防団では新たな団員を募集しています。渡邊さんは、「厳しすぎが必要」と真剣な表情で話します。

消防団経験者の方へ 消防協力員を募集

消防団員の確保が全国的に困難となっている中、市では、消防協力員を募集しています。

これは、地域における消防・防災力の低下を防ぐため、消防団員の活動を支援することを目的に、「消防協力員制度」を平成20年4月に立ち上げたことによるものです。21年7月1日現在、69人が同協力員として活躍しています。

▽対象 原則として、市内在住・在勤の60歳未満で、消防団員として5年以上在職した方

▽職務・活動内容 ①火災発生時に消防団が行う消火作業の支援を行う。火災出動範囲は居住地分団の出動範囲内 ②大規模災害時、消防団と共に消火・救出・救護活動を行う ③各地域の消防に関する情報を消防本部に提供

▽身分・報酬・災害補償 協力員は、地方公務員(非常勤特別職)の身分を保障。報酬は年額2万円。災害活動中のけがなどに対しては、災害補償制度を適用。
☎ 消防総務課 (☎231・5153)

平成21年度消防操法大会の結果

(7月12日開催)

- 〔団体の部〕
 - ▽最優秀賞 第14分団(門沢橋地区)
 - ▽優秀賞 第7分団(上今泉地区、第10分団(杉久保・上河内地区)、第5分団(上郷地区))
 - ▽指揮者 第14分団・大澤 俊文(上今泉地区)
- 〔個人の部〕
 - 龍司(門沢橋地区)
 - ▽1番員 第10分団・木嶋久義(杉久保・上河内地区)
 - ▽2番員 第7分団・伊藤秀一(上今泉地区)
 - ▽3番員 第5分団・雨宮大樹(上郷地区)
 - ▽4番員 第7分団・梅谷俊文(上今泉地区)

第2分団器具置場が完成

市では、地域の防災拠点となる消防団器具置場について、計画的な建て替えを行っています。

このたび、第2分団器具置場(大谷・国分寺台・勝瀬・浜田町地区)が完成し、移転が完了しました。

▷所在地 大谷北3-32-21 ▷建物概要 軽量鉄骨2階建て 建築面積49.98㎡ 延べ床面積99.96㎡。
☎ 消防総務課 (☎231・5153)。

